

編集後記

一八七号をお届けします。

論説二本と研究ノート二本の構成としました。

野田論文は、『田舎新報』から民衆の対外意識とそ
の変化を読み取ろうとした労作です。相変わらずの博
識と緻密な仕事ぶりで、研究ノートとしての御寄稿で
したが、巻頭を飾って頂きました。

内田論文は、本年度総会での発表を再構成したもの
です。家族史や女性史分野の先行研究を踏まえて、五
馬市村の実証研究を行なっています。総会当日の「こ
れは地方史か」という囁きにもやや配慮が見られます
が、今後の実績で応えてくれるでしょう。

研究ノートの二本は、八五歳でなお意気軒昂な長氏
による史料提供と、目下歴史学入門中の若い学生たち
による共同研究に致しました。

今後も皆様の研究成果が実り、多くの玉稿が事務局
に寄せられますよう期待します。

どうぞ佳い年をお迎え下さい。

(末廣)

大分県地方史 第一八七号

平成十四(二〇〇二)年十二月二五日 印刷
平成十四(二〇〇二)年十二月三〇日 発行

編集者 末廣利人

発行者 豊田寛三

印刷者 廣永晴巳

大分市大手町二丁目三十四

印刷所 有限会社舞鶴孔版

(五三二一四三三二)

発行所

〒八七〇一一二四

大分市且ノ原七〇〇

大分大学教育福祉科学部国史研究室内

大分県地方史研究会

(振替・〇一五八〇一二五二九四)